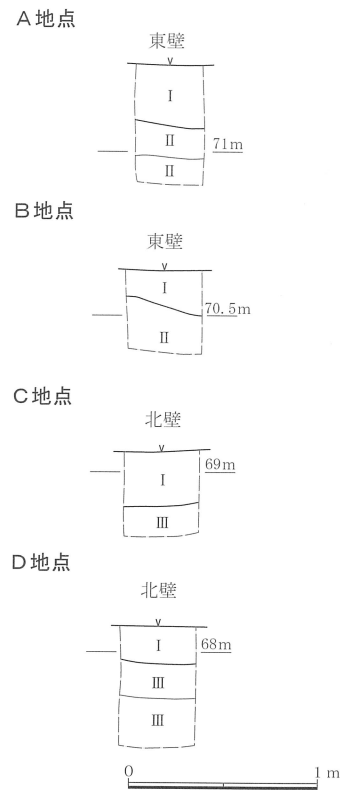


調査箇所および工事箇所位置図 (1/3,000)



調査箇所断面図 (1/40)

第 57 図 男狭穂塚女狭穂塚陵墓参考地 調査位置図および断面図 (1/3,000、1/40)

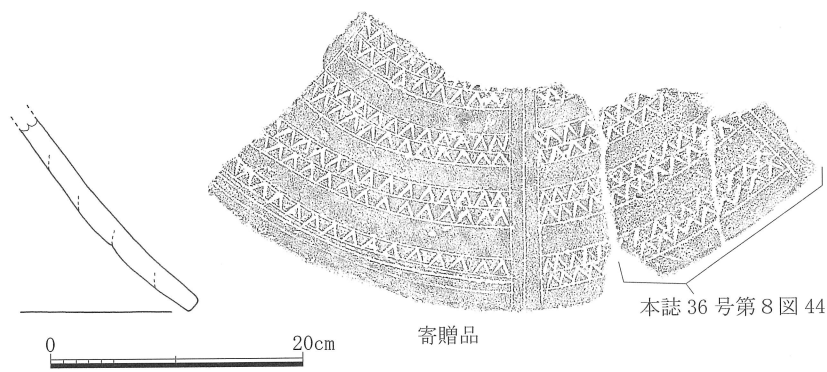
付編

男狭穂塚女狭穂塚陵墓参考地 女狭穂塚における採集品について

女狭穂塚は、昭和 50 年 5 月に後円部において盗掘されていることが判明した。その際の状況や出土した埴輪については、すでに本誌第 36 号で報告したところである。平成 27 年 5 月 3 日に至り、盗掘後、その事実が発覚する間に本塚に参入し、甲冑形埴輪(草摺部) 1 点を採集した人から宮崎県の埋蔵文化財関係者を通じて、その寄贈を受けた。受領後、当部保管資料と対応したところ、既報告の第 8 図 44 と接合することが確認され、女狭穂塚出土品と確定することができたので、ここに報告するものである。(福尾正彦)

このたび寄贈を受けた女狭穂塚採集品は第 58 図のとおりである。女狭穂塚の埴輪は黄白色で胎土に多量の茶色粒を含むことから非常に特徴的であり、第 58 図の採集品もそれと同様であったため一見して女狭穂塚からの出土品である可能性の高いことが了解された。また、内面には「西都原女狭穂塚(75. 4/22)」という注記もなされていた。念のため既存資料との接合関係を確認したところ、すでに上でも述べたように接合することが確認できた。よって、寄贈品が女狭穂塚に伴うものであることが確定した。

この資料は甲冑形埴輪(草摺部)の破片で、裾部は直径約 58cm に復元できる。外面には縦方向と横方向に区画する線が刻まれ、横方向の区画内には鋸歯状の線刻がほどこされている。内面はナデ調整であるが、接合痕が残存しており粘土紐の単位が観察可能である。(加藤)



第 58 図 女狭穂塚 出土品実測図 (1/6)